

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や児童の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



小学校・社会



社会科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

1 社会科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 学習指導要領改訂のポイント

- ◇作業的、体験的な学習や問題解決的な学習の一層の充実
- ◇言語活動の充実
 - ・必要な情報を入手し、的確に記録する学習
 - ・入手した情報を比較・関連付け・総合しながら再構成する学習
 - ・考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく学習 など
- ◇学習や生活の基盤となる知識についての学習の充実
 - ・47都道府県の名称と位置、世界的主要大陸と海洋、主要国の名称と位置 など
- ◇我が国の伝統や文化についての学習の充実
 - ・我が国の代表的な文化遺産や狩猟・採集の生活、室町文化、町人の文化や新しい学問 など
- ◇よりよい社会の形成への参画に関わる学習を充実
 - ・環境や防災、情報化、法や経済の基礎となる内容 など

事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 主体的な追究活動を通して、基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な習得と活用を図り、社会的な見方や考え方を養う指導計画の工夫改善
- 作業的・体験的な学習、問題解決的な学習の充実（言語活動の充実）
- 評価の工夫改善（指導と評価の一体化、妥当性・信頼性の高い学習評価）

【参考文献】

- ・「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 平成20年8月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」 文部科学省 平成23年10月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 社会】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料（小学校編）」 栃木県教育委員会 平成23年6月
- ・「とちぎの子ども基礎・基本」 栃木県教育委員会 平成24年1月
- ・「とちぎの子ども基礎・基本 問題事例集〔活用編〕社会」 栃木県教育委員会 平成24年1月
- ・「平成23年度『とちぎの子ども基礎・基本』習得状況調査の結果と授業改善に向けて」 栃木県教育委員会 平成24年3月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。
◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

児童の主体的な追究活動を成立させるための第一の要件は、児童自身が「確かめなければ分からない」と思うことです。本事例では、地図に写真を貼っていくことにより、「空白」の部分があることに気付いたり、互いの記憶の「ずれ」に気付いたりして、児童が見学の必要性に気付くことをねらっています。

指導のねらい

学校のまわりの様子に関心をもち、地形や土地利用、目立つ建物、交通の様子、古くから残る建造物などについて観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、学校のまわりの様子は場所によって違いがあることを理解できるようにする。

＜学習指導要領との関連＞ 【第3・4学年】目標（2）、（3） 内容（1）

単元の例

時	主な学習活動	○指導上の留意点 ・ 準備
1	- 生活科の「町たんけん」を思い出しながら、写真や覚えていたことを書いたカードを白地図に貼る。 - 写真を貼って気付いたことを話し合う。 地図の「白いところ」はどうなっているのかな。 たんけんしてたしかめよう。	- 白地図（掲示用） 「町たんけん」の写真 「おぼえているよ」カード - 貼りはがしができるのり
1	見学の計画を立てる （ ・ めあての確認 ・ コースの設定 ・ 見学の約束や持ち物の確認 ）	白地図（個人用） ○四方位について指導する。 ○見学コースは、児童にも考えさせる。 指導のねらいや安全面、時間の制約等の観点から適宜助言する。
4	学校のまわりを見学する。 ※ 1回当たりの見学時間が長くなると、児童は、疲れと飽きから、周囲をよく観察しなくなります。可能であれば、東西南北の方面別など、複数回に分けて見学させるとよいでしょう。	白地図（各自）筆記用具 ○児童にカメラは持たせず、白地図に記録させるようにする。
2	- 見学して分かったことや気付いたことをカードに絵や言葉で書き、大きな白地図に貼る。 - 出来上がった地図を見て、気付いたことを話し合う。	「わかった」「気づいた」カード - 貼りはがしができるのり
1	みんなの地図をもっと見やすい地図にしよう。 - 地図を見やすくするにはどうしたらよいか話し合う。 - 教科書などの地図を見て、「地図のやくそく」を知る。	○なぜ見づらいのかを具体的に検討させることで、地図に記載する情報を精選する必要があることや、記号を使うなどして情報を整理する必要があることに気付かせる。
2	「地図のやくそく」を確認する。 - 航空写真で土地利用の様子を確認しながら、「やくそく」に従って地図を作り替える。	航空写真 （スクリーンやテレビ画面に投影する）
1	出来上がった地図を使って、学校のまわりの場所の様子を比較し、場所による様子の違いを考え、話し合う。	○初めに、違いが分かりやすい二つの場所を取り上げて比較させる。

評価に当たって

○初めて社会科を学習する小単元です。記録に残すという意識が強すぎると、児童にとっても教師にとっても負担が大きくなります。次の小単元「市や町のようす」と併せて一つの内容のまとまりであることを踏まえ、二つの小単元を見通した評価計画を立てるなど効率的な評価に努め、児童としっかり向き合いたいところです。

留意点及び工夫点

- 本事例では、生活科で「町たんけん」を行い、その時の写真が残っていることを想定して展開例を作成しましたが、教師が事前に学区内のいろいろな場所の写真を撮影しておき、その写真を使用することも考えられます。
- 地図に写真を貼る際には、貼りはがしができるのりを使用することとしています。同じ白地図上で、写真から絵、絵から記号へと段階的に置き換えていくことにより、無理なく地図への移行ができるよう配慮しました。
- この時期の児童は、めあてを決めて見学に行っても、社会科の枠にとらわれない発見をしてることがあります。そうした発見の中にも、社会科の学習に生かせるものはたくさんあります。例えば、「虫がたくさんいた」と言った児童がいた場合、なぜその場所に虫がたくさんいたのか、なぜ他の場所では見られなかったのかを考えさせることで、土地利用の違いが見えてきます。児童の発言をよく聞き、柔軟に対応することが大切です。

児童が主体的に問題解決的な学習に取り組む上で、解決の見通しをもつことはとても大切です。学習問題に対する予想を具体化し、その予想を確かめるために必要な事実や調べる方法などを明らかにすることにより、児童は、見通しをもって主体的に学習に取り組むことが可能となります。

指導のねらい

我が国の米づくりに関心をもち、生産地の様子や生産の工夫、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなどについて調べ、我が国の米づくりが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや、米づくりと自然環境の関わりについて理解できるようにする。

＜学習指導要領との関連＞ 【第5学年】目標（2）、（3） 内容（2）

授業の例

実施時期：小単元「庄内平野の米づくり」（10～12時間程度）の第2時



この前の時間に「どうして庄内平野では米づくりがさかんなのだろう」という学習問題を作りましたね。この時間は、まず、学習問題に対する予想を考えてみましょう。

【最初に出される予想の例】

・米づくりに向いているから ・おいしいから ・安く作れるから ・近くに買う人がたくさんいるから



たくさんの予想を考えることができましたね。では、少し詳しく見ていきましょう。例えば、「米づくりに向いている」とは、**どんなところが向いているのだと思いますか。**「おいしさ」はどうでしょう。**どうやってお米をおいしくしているのだと思いますか。**

【具体化された予想の例】

・米づくりに向いているから → ・気温がちょうどいい ・地形 ・土の質がいい ・水がたくさんある
・おいしいから → ・米の種類が違う ・特別な肥料、作り方 ・土、水の質が向いている
・安く作れるから → ・機械を使って人手をはぶいている ・安く送ることができる



ずいぶん予想が具体的になりましたね。それでは、これらの予想を確かめるにはどうしたらよいでしょう。例えば、**どんなことが分かれば、「庄内平野の気温は米づくりにちょうどいい」と言うことができますか。**まずは、自分の予想から考えてみましょう。

【予想を確かめるのに必要な事実の例】

・米づくりに向いているから → ・米づくりに必要な条件（気温 地形 土の質 水）と庄内平野の条件
・おいしいから → ・作られている米の種類 ・使っている肥料 ・作り方の工夫
・安く作れるから → ・どんな機械を使っているか ・どこにどうやって送っているか
・近くに買う人がいるから → ・どこに送っているか



何を調べるのかがはっきりしましたね。最後に調べる順番と方法を決めましょう。まずは調べる順番から考えましょう。調べ学習に使える時間は○時間です。**どんな順番で調べると調べやすそうですか。**また、一緒に調べると調べやすそうなものはありますか。

【予想される反応の例】

・庄内平野の気温や地形などは、教科書や地図帳ですぐに確かめられると思う。
・米づくりに必要な条件も教科書や資料集に載っていそうだし、なくても百科事典などで調べられる。
・米の作り方は本に載っているだろうけど、どれがおいしくする工夫なのかは分からないかもしれない。
・最初に教科書や資料集で調べて、それでも分からないところは作っている人に手紙で聞いてみよう。

評価に当たって

○社会的な事象から学習問題を見だし、予想や学習計画を考える力は、「社会的な思考力・判断力・表現力」に当たります。そこで、学習計画を立てる場面では、学習問題に対する自分なりの予想を考えることができたか、自分の予想を確かめるには、どのような事実をどのような方法で確かめればよいのか、どんな順番で確かめるとよいのかを考えることができたかをノートあるいはワークシートの記述から評価します。

留意点及び工夫点

○予想の段階では、間違った予想が出されることがや、教師側が学習させたい内容のすべてが予想に含まれていないことがあります。そのような場合、無理に予想を修正させない方がよいでしょう。むしろ、調べる段階において、1時間ごとに、分かったこと、まだ解決していないこと、新たに生じた疑問などを確認しながら学習計画を見直し、計画表を修正しながら学習を進めていくことが大切です。

歴史学習に限らず、学習対象となる人物の工夫や努力、思いや願いなどを考える活動は、社会科の目標に迫る重要な活動です。その際、児童には「事実を基に考える」という姿勢を身に付けさせたいものです。

指導のねらい

大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活に関心をもって意欲的に調べ、天皇中心の政治が確立したことや日本風の文化が起こったことを理解できるようにする。

＜学習指導要領との関連＞ 【第6学年】目標(1)、(3) 内容(1)イ

授業の例

小単元：「天皇中心の政治や日本風の文化」(9時間程度)のうちの2時間



【学習問題作りの後】20歳で日本の国づくりを任された聖徳太子は、どんな国づくりを目指したのでしょうか。十七条憲法や太子が行ったことから予想してみましょう。

【予想される反応の例】

- ・十七条憲法に「和を以て貴しと為し…」とあるから、平和な国づくりを目指したと思う。
- ・十七条憲法に「篤く三宝を敬へ…」とあるから、仏教を大切にしたい国づくりを目指したと思う。
- ・十七条憲法に「詔は必ず聞くように」とあるから、天皇を中心にした国づくりを目指したと思う。
- ・年表には中国(隋)に使いを送ったとあるから、中国(隋)を手本にした国づくりを目指したと思う。



いろいろな予想が出てきましたね。では、皆さんの予想を確かめていきましょう。例えば、**聖徳太子が行ったことの中で、「こういうことをしていたから平和な国づくりを目指していた」といえる事実はあるでしょうか。**また、そのころの出来事の中で「こういうことが起きていたから太子は平和な国づくりを目指そうと考えたのではないか」といえる事実はあるでしょうか。次の時間までに調べて、ノートにまとめておきましょう。



【次の時間】それでは、聖徳太子が目指した国づくりについて、調べて考えたことを発表してください。発表するときは、聖徳太子はどのような国づくりを目指していたと自分は考えたのかと、どの事実からそう考えたのかを発表してください。

【予想される反応の例】

- ・年表には、当時は豪族同士の争いが多かったとあるから、やはり平和な国を目指したのだと思う。
- ・法隆寺や四天王寺を建てているから、やはり仏教を大切にしていたことは間違いないと思う。
- ・冠位十二階は天皇の命令を聞かないと高い位をもらえないから、天皇中心の国を目指していたと思う。
- ・隋への手紙から対等な付き合いをしたかったことが分かる。隋に負けない進んだ国を目指したと思う。



友達の意見と同じだけれど、他にも理由があるという人はいますか。
また、**理由とする事実は同じだけれど、他の意見を考えたという人はいますか。**

【予想される反応の例】

- ・冠位十二階は、豪族同士が勝手に争うのをやめさせるために行っていたということもあると思う。
- ・太子が仏教を大切にしたいのも、平和な国づくりのために役立てようと考えていたのだと思う。
- ・仏教や冠位十二階など、外国の進んだ文化や制度を取り入れて、日本を進んだ国にしたかったと思う。



よく話し合うことができましたね。最後に、この時間の話し合いを受けて、改めて、聖徳太子はどんな国づくりを目指したのだと思いますか。理由も付けて書いてみましょう。

評価に当たって

- 「聖徳太子はどのような国づくりを目指したのかについて、太子が実際に行なったことなどを根拠に考えることができたか(社会的な思考力・判断力・表現力)」をノートの記述から評価します。その際、例えば、事実を根拠に太子が目指した国づくりを考えている状況を「おおむね満足」と評価し、さらに、複数の事実を総合して考えたり、複数の意見を総合して考えたりしている状況を「十分満足」と評価することなどが考えられます。

留意点及び工夫点

- 調べて考えたことを話し合う場面では、結論は同じでも、児童によって根拠とする事実が異なる場合があります。また、同じ事実を根拠としていても、児童によって結論が異なる場合があります。教師が意図的に多様な意見の発表を促すことにより、児童一人一人の見方や考え方を広げ、社会的事象についての理解を深めさせることができます。また、児童がお互いの発言の関連に気づき、話し合いが活発化することも期待できます。